

緊急対応マニュアル
～地域クラブ活動中の救急体制～
【令和6年度版】

令和6年4月

可児市

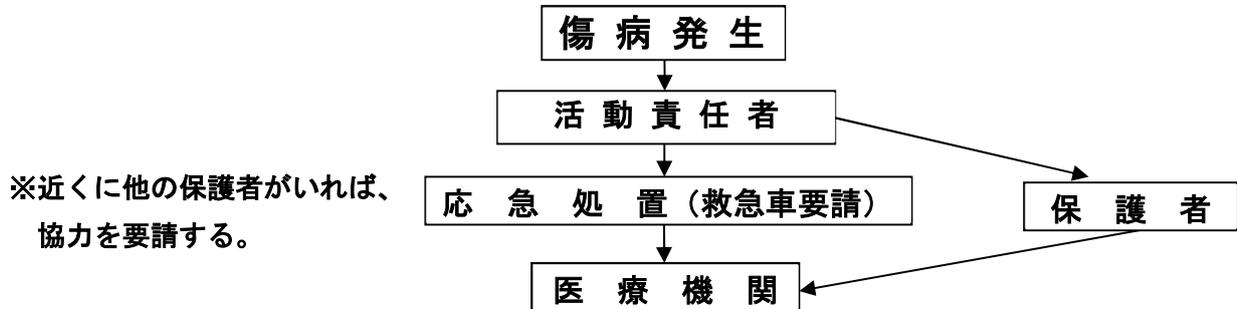
可児市教育委員会

可児市ジュニアスポーツ・文化活動振興会準備会

1 救急処置心得

- (1) 的確な判断で…急を要するか、病院へ搬送すべきか、応急処置でよいか
- (2) 冷静な態度……あわてることなく、自信のある態度と処置
- (3) 敏速な行動……傷病者を見て、まずしなければならないことは何か、応急処置、連絡などその場に応じた適切な処置

2 救急処置対応



【AED設置場所】

学校名	屋外設置	建物内設置	計
蘇南中学校	体育館玄関前	1階・職員玄関	2
中部中学校	体育館玄関前	1階・職員玄関、2階・職員室前	3
西可児中学校	体育館玄関前	1階・職員室前、2階・教室棟廊下、3階・教室棟廊下	4
東可児中学校	体育館玄関前	1階・保健室前、2階・北校舎廊下	3
広陵中学校	体育館玄関前	1階・図書館前	2

3 移送

生命に危険と判断される場合

心臓発作、転落事故（頭部外傷）、内臓破裂、広範囲の火傷、その他重傷のため生命に危険があると思われる場合は、速やかに救急車を呼ぶ。

【救急車への連絡方法】 119「救急です。」

- ・活動場所の住所、電話番号および通報者指名
- ・患者の状況……いつ、どこで、どうして、どうなったか（転落、意識不明、出血）
- ・応急処置の報告……今までに行った応急処置を報告し、次の指示を尋ねる。
- ・目標物、進入経路を告げる……わかりやすい場所に立って救急車を誘導する。

※移送の同行者は相談し、あらかじめ決めておく。

救急車要請の基準

- ・意識消失の持続するもの
- ・ショック症状の持続するもの
- ・けいれんが持続するもの
- ・激痛の持続するもの
- ・多量の出血が持続するもの
- ・大きな開放創をもつもの
- ・広範囲の火傷を受けたもの

生命に危険はないが、医療を必要とする場合

- ・保護者に連絡を取り、活動場所へ来てもらう。
- ・保護者に連絡が取れない場合は、連絡が取れるまで待つ。

事後措置

- ・医療機関で受診した場合は、速やかに学校・UNICへ連絡する。

事故対応の流れ迷わず、落ち着いて、命を守り抜く強い意志をもって！



死戦期呼吸（あえぎ呼吸）とけいれんについて

- 心停止となった場合、『死戦期呼吸』と呼ばれるゆっくりあえぐような呼吸や『けいれん』が認められることがあります。突然、目の前で卒倒し、いつもと様子が違う呼吸やけいれんを認めた場合、『心停止の可能性』を疑い、行動を始めることが重要です。
- 心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったりAEDを使用したりしても大きな問題は起こりません。
- ※ 『死戦期呼吸』や『けいれん』の判断ができない場合や、自信がもてない場合は、胸骨圧迫とAEDの使用を開始します。



救急車の呼び方

1 「救急」であることを伝える。

119番通報をしたら、まず、「救急です」と伝える。

2 「住所」を伝える。

「可児市今渡112番地 蘇南中学校です。」

3 「事故や傷病者の状態」を説明する。

・「誰が、どのようにして、どうなったか」を簡潔に伝える。

4 「通報者の名前、電話番号」を伝える。

「私は、〇〇〇〇です。私の携帯番号は、〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇です。」

5 ＜救急車の到着時＞

救急車を誘導する。

救急隊が到着したら、行った応急処置、容態の変化、傷病者の既往歴

などを報告する。

救急要請が必要な場合

- ・意識がない。
- ・呼吸停止、心臓停止で心肺蘇生法が必要。
- ・呼吸困難。
- ・頭部打撲、意識状態がよくない。
- ・腹部打撲、痛みが強く、嘔吐や吐き気がする。
- ・激しい腹痛。
- ・胸痛がする。
- ・けがをして、出血がひどい。
- ・脊髄を損傷した恐れがあり、手足の一部が麻痺している。
- ・広範囲なやけど。

